



豊川下流域の住民として 設楽ダムをどう考えたらよいか

開催日時

2017年
1月21日(土)
13:30~16:30

開催会場

豊橋市職員会館 5階

<交通アクセス>
豊橋鉄道市内電車
「市役所前」電停から
徒歩約3分

参加費
資料代
(カンパ)

第1部 記念講演



講師 市野和夫氏 (元愛知大学教授)



市民が再検証する設楽ダム事業

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター

宮入興一氏 (愛知大学名誉教授・当研究所代表)

パネラー



豊川用水の水は足りている~現場から

伊藤正志氏 (農民運動愛知県連合会会長)

三河湾が国産アサリの6割のシェア

鈴木輝明氏 (名城大学大学院特任教授)

設楽ダム予定地の地盤は?

市野和夫氏 (元愛知大学教授)

主催:東三河くらしと自治研究所

豊橋市今橋町 1 番地 豊橋市職労内

電話 0532-51-3090 FAX 0532-56-5147

協力: 設楽ダム建設中止を求める会



国と愛知県が設楽ダムを作ろうと計画案を出したのは今から43年も前、1973年です。豊橋、豊川などの下流市町の発展のために水資源が必要と推し進めて当初計画より規模が拡大されて、総貯水容量が9800万 m^3 と愛知県で一番大きなダムです。総事業費は2008年の基本計画では2070億円でしたが、2016年の第1回変更で330億円増えて2400億円、工期も6年間延びて工事はこれからです。しかも、ダム建設予定地の地盤が物凄く悪く、活断層の疑いなど地質・地盤問題も明らかとなっています。だから総事業費は、とても2400億円では収まらず、数倍にも膨れ上がるのではと懸念されています。2002年に豊川総合用水事業が完成して、水道用水やかんがい用水は足りているのです。東三河地域の人口は減少し、2060年には54万人(国立社会保障・人口問題研究所、現在約76万人)と予測されています(東三河広域連合・東三河人口ビジョン、62万人)。

また、三河湾は海域環境創造事業(シーブルー事業)と愛知県漁連の努力によって国産アサリ6割のシェアを占めています。アサリ稚貝の唯一の供給地である豊川河口の六条干潟は、設楽ダムの建設で河口から入ってくる川の水と砂が減り、死滅してしまいます。

数十年前の計画を、地域社会が大きく変化している中で、数千億円を投じて設楽ダム建設する必要性はあるのだろうか。下流域にどのような環境影響を及ぼすのだろうか。

研究者、下流域の農家の現場からお話をして頂きます。ぜひ、ご参加下さい。



東三くらしと自治研究所とは・・・



当研究所は、自分たちでお金を出し合い、自分たちで運営する非営利の研究所です。

設立は、2007年9月29日。「東三河地域のくらし、まちづくり、自治体をめぐる諸問題」について、「住民、自治体労働者、市民団体、研究者、専門家」などが共に研究・交流し合っています。そして、政策提言できる「住民の、住民による、住民のためのシンクタンク」として、『東海自治体問題研究所』とも連携しながら活動しています。

くらしや地域、自治体の主人公は住民自身です。より良い生活環境づくりは、私たち住民が「知ること・学ぶこと」に、意識的に参加することから始まります。

最新の情報を得て学び合い、くらしを良くする主役になりましょう。